

教科教育キャリアアップフィールド（体育）

コース名：体育科教育に関する整理と探究

保健体育専修 原 田 憲 一
杉 森 弘 幸
熊 谷 佳 代

1. 研修教員の主たる研修課題と研修実施日

研修教員 Y教諭（安八町立登龍中学校）

主たる研修課題 一人一人が目標を持ち、仲間とともに運動を楽しむ生徒の育成
—自分にあった課題の設定—

研修実施日 平成16年7月27日・8月5日・17日・9月1日・22日

2. 研修の意図と目標

本コースを設定した意図は、教育生活12年を向かえ、今までの行ってきた体育科教育の授業の振り返りを行い、その反省・整理をする。その中から、こだわってきたところ、自信のないところ等を探しだし、そこを問題点として課題とし、より良い授業を行うために基礎的知識の整理との教員資質向上のための研修とする。

第1日目の研修で、研修者の本研修への目的意識と今までの教育活動の体育授業の振り返りを中心にして問題点を探った。本研修に対して、研修をする意欲は積極的で、あれもこれもと言う状況であったが、具体的な課題設定はなく、漠然としていた。今までやってきた授業の問題点等を整理しながら、総論的な授業づくり及び授業点検の方法などを中心にして研修を進めることにした。出来るだけ多くの人の授業、また研究会等の参加を通して多くの授業の工夫を探求することにした。最終的には、今までの授業において改善や工夫を試みることにして、自分自身で授業づくりや、授業研究を行うための資質の向上を図った。

運動種目の特性を活かした授業づくりを念頭に置いて設定したコースで、授業内容に即して集団種目・個人種目・表現運動等と担当者を3名準備し、それぞれに対応しようと考えていたが、私（原田）個人が対応することにした。

3. 計画

担当教員はもとより、出来るだけ多くの教員と議論をすることによって、視野を広げるために他の考え方を聞くことと、自分の考えをまとめるために自分で意見を発言することを研修者に要求した。そのため第1日目に教員研修会や研究会を探し、担当者と共に出向いて参加し、議論に加わる計画をした。結局二度実現した。

最終的には、今までの授業を見直しそれを修正しながら、改善された授業を作成し、実施して

みることとした。

4. 展開

(1) 講義

研修者の疑問も含めて、現在話題となっている問題点について、担当者の講義及び議論を行った。主な内容は以下の通りである。

①評価論・観点別評価及び絶対評価について

観点別評価では、体育で「心と体を一体として捉え」と指導要領で改訂されたにもかかわらず、観点別に評価することについて一見矛盾と見えるが、そうではないこと。様々な活動や動作の一つずつ観点を決めて別々に見るのではないこと。同じ一つの動作や活動であっても4つの観点から見る事が可能で、それが必要であること。

絶対評価では、尺度を決めて、到達度を見るだけが絶対評価ではなく、他と比べることなく、個そのものの成果や到達を見る必要があること。

②授業づくりについて

授業の意図からいえば、何を学習させるのかという目標を明確に持つ必要があること。それをいかに達成できたかという点から、評価論とも一体化して構成すべきであること。

③指導について

運動者主体から活動や動作を見ること。動作や出来ばえを客観的に見れば、運動の評価は出来ても運動指導にはならないこと。

(2) 研修会参加

研修に参加し、保健授業の実践報告から検討し、議論に加わった。教材は性感染症、応急処置であったが、検討・議論の内容は以下の通りである。

①特に性感染症の授業では、学校の実態に即して変更する必要があること。

②教科書通りではなく、驚きをつかむことで、VTRや教材教具の充実を図ること。

③応急処置では、毎年行うことで理解ではなく技術を身につけること。実習を大切にして実際に自分の生活に還元できるようにすること。

(3) 研究会参加

小学校体育研究会夏季研究集会に参加し、それぞれの実践報告を元に検討・議論に加わった。主な内容は以下の通りである。

①頭はね跳びの実践報告

段階表の活用や特設練習の場を設けることで学習者は上達する。また教師よりも仲間からの声や補助も有効であった。

②ダンスの実践報告

単元計画の工夫、中間研究会や班での観察しあうことを取り入れる。一時間の学習の進め方を具体的に示す。

③ハードル走の実践報告

技能の習熟ポイントを分かりやすく作成することが大切である。準備に時間がかかるので短時間に準備を行う。夢中になって取り組める設定が必要である。

④ボール運動の実践報告

9年間を見通した計画が必要である。ボールのキャッチからバスケットボールに発展するまでのいろいろなゲームの工夫が必要である。中学生のバレーボールでは、小学生からソフトバレーボールを行うなどの見通しのある計画が必要である。

(4) 自己研修

3回のスクーリング研修（研究会参加）を行い、その後は自己研修を主として研修者自身で以下の点から検討・考察を行った。それに従い3年生女子、ハードル走の授業を作成し、実施した。

①問題解決のための指導計画の改善

ア. ペア・グループを重点とした授業の仕組み方

イ. 自己課題の設定を確かめる授業の流し方

②つまづきを知るための授業の工夫—評価をからめて—

ア. 自己課題、伸びを確認するための教材・教具の工夫

イ. 学習ノート、資料の充実、自己評価の工夫

ウ. 練習方法の提示

③互いに高めあう学習集団の育成

ア. ペア・グループを単位とした学習

イ. 目的によるペア・グループの役割、グループ組織

実施した結果、意図したところは概ね良好のようであったが、また新たに不足分や課題が垣間見られたようである。授業は、繰り返しの利かない一回毎の勝負ともいえるが、振り返り改善を加えて積み重ねて行かねばならない。十分に準備することと同時に、反省し、次回の改善の手だてをたてるところまでしなければならない。

5. 反省及び感想

期間が夏休みと言うこともあって、研修が終わってから後日に、実際に授業をしてもらったのであるが、参観は出来なかった。授業にこだわっておられるようだったので、研修者の実際の授業を参観させてもらって、後に一緒に反省する仕方をやれば良かったと思っている。

研修者が明確な問題意識を持って参加されるともっとやりやすいように思える。